

すてきに人生

いっこの森で手紙の交流

源野 正弘さん(60) 福井市若杉町

東山いっこの森キャンプ場の管理人を勤める源野さん。北谷町五所ヶ原の出身ということもあって、昨年からは、管理人として働いています。営業を行う10月24日まで、東山で生活し、キャンプ場の受け付けやトイレ掃除など、訪れる利用者のために施設の管理に汗を流しています。

若い頃から写真が好きだったという源野さんは、キャンプ場を訪れた家族などをカメラに納め、手紙を添えて写真を送ってきました。その数は昨年から300通を超えます。源野さんのものには利用者からの感謝の手紙が数多く届いており、遠足で訪れた県内の高校生からは、「写真を教室に飾っています。見てみると心が安まります。」

また、県外の家族からは「自然の中に入ると不自由なことがわかります。そんな不自由の中でしか学べないことがたくさんあります。」と自分や友人などを見つめ直す機会に感謝する内容のものもありました。源野さんは「これらの手紙は本当に価値があります。」と、キャンプ場を訪れた家族などの当時の様子を、目を細めながら一つひとつ話してくださいます。

「ここは自分を発見できる場所だと思っています。そのためにも、この自然の中でいろいろと体験してほしいです。」と、自然がもたらしてくれる癒しの効果についても語ってくれました。また、「増えはいますが、もっと市内のかたにも利用してほしいですね。」と、身近な施設として利用者が増えることを願う源野さんでした。

東山いっこの森には「テージヤパンガロー、バーベキュー場などの設備が備えてあり、これから季節は新緑の取立山登山がおすすめです。5月下旬頃までは山頂付近で、ミスバシヨウの純白の姿を見ることが出来ます。東山いっこの森へのお問い合わせは083・1347まで。



お礼の言葉を述べる横濱さん

勝山城博物館で茶会

4月20日に「第2回勝山城清明茶会」が開催されました。同茶会は日本の伝統文化の茶道を地域に広めるべく昨年より催され、今年も濃茶・薄茶・野点席そして懐石の点心の4席が設けられました。

当日は新緑の美しさが目にしみるほどの天候に恵まれ、遠くは東京・京都・大阪をはじめ、県内外から約250人が参加し、お茶の魅力を満喫されていました。勝山城博物館の深谷久枝館長は「お茶をおもてなしすることで皆様と和やかなふれあいのときを持ち、勝山城でしかできないお茶会を今後も続けていきたい。」と、熱っぽく語っていました。



お薄席のにぎわい

若い力で未来の発展を

この春、新社会人として奥越地域の企業25社に就職された新規卒者の激励会が、4月22日に(財)奥越地域産業振興センターで行われました。

主催者のおくえつ雇用開発協議会の稲山幹夫会長が「皆さんは貴重な人材。若い力で未来の発展を。」と激励すると、新規卒者就職者86人を代表して、特別養護老人ホーム「さつき苑」の横濱弘幸さん(20歳)が「今日の励ましの言葉を忘れず、力を合わせてがんばります。」とお礼を述べました。

この後の新社会人セミナーでは「プロとして生きること」と題し、就職コンサルタントの道盛陽子さんが講演されました。

HOT話題

大門市再開

4月16日、平泉寺白山神社の精進坂前で、地元平泉寺区民や関係者、約40人が参加して祈願式が行われ、大門市が再開されました。

大門市は、平安時代に戦勝祈願として開かれたとの伝承があり、昭和63年に地元の婦人グループが「大門市世話人会」を発足して復活させたものです。

市には勝山水菜や平泉寺みそ、里芋など区民が持ち寄った新鮮な野菜などが並びました。訪れた竹内つね子さん(郡町2)は「知り合いがたくさんいるので、普段からよく来ています。新聞で今日から再開の記事を見て来ました。」と話し、里芋やヒラタケなどを買っていました。

今年的大门市は11月24日(月・祝)まで、毎日午前7時から開かれています。



これからの季節、フワヒヤゼンマイなども並び



「奥越の皆さんが利用することで医療連携が発展する。」と述べる小辻教授

安心して産科医療の受診を

4月20日、福井大学医学部附属病院と福井社会保険病院との医療連携1周年を記念し、「安心して産婦人科医療を受けられるまちを目指して」をテーマに講演会が開かれました。会場となった市民会館には約100人が訪れ、同大医学部の小辻文和教授による「奥越における産婦人科医療体制確立の試み」と題した講演などに耳を傾けました。

小辻教授は、医療訴訟や激務により産婦人科医が激減している実態を挙げ、「分娩は100%安全ではなく、250人に1人が危険な状態にある。今後は高度な分娩施設に医師の集約化が絶対に必要だ。」と述べ、「健診は社会保険病院で、分娩は高度医療が充実している福井大学医学部附属病院で」という医療連携をアピールしました。

勝山をアピールしたい

岸本佳子さん(22) 大野市
松山奈央さん(18) 遅羽町比島
杉俣有美さん(18) 旭毛屋町

勝山市の魅力为全国にPRする「勝山市産業観光キャンペーンスタッフ(フレッシュメイツ)」に、新しく岸本佳子さん、松山奈央さん、杉俣有美さんの3人が選ばれ、4月4日に(社)勝山観光協会の細川信男会長から委嘱状が手渡されました。委嘱式で細川会長は「旧機業場も来年のゴールデンウィークを目処にオープンします。県内外で勝山をPRされることを期待しています。」とあいさつされました。

もっと勉強して好きなところをアピールしたい。松山さんは「小さい頃から左義長まつりなどの行事に参加してきました。良いところをアピールしたい。杉俣さんは「大好きな勝山をいろんなところでたくさんアピールしたい。」と抱負を語っていました。

現在、5月17日・18日に行われる「春のうまいもん祭」に向け接遇マナー研修を受けるなど特訓中ですが、今後2年間、各種イベントや出向宣伝にかけ、勝山の魅力を伝えていきます。

出会いふれあい青春ing



フレッシュメイツに委嘱された(左から)杉俣さん、岸本さん、松山さん